

### 「20年前に受けたアクティブラーニング型授業を振り返る①」

今日、すごく感動的な手紙が届いたので少し紹介したい。経緯を簡単に説明すると私は教育大附属の小学校に通っていたため授業はどの教科もほとんどが今で言うアクティブラーニング型だった。それは私の中に大きな影響を及ぼしていると思っているのだが、何せ子供の頃の記憶でしかないのので何とも曖昧である。そこで、育児休暇を利用して、当時の担任の先生にコンタクトをとり当時の授業の指導案や研究発表資料などが残っていたら見せて欲しいとお願いをした。

今日、そのうちの1人の先生が送って下さった指導案が届いた。その詳細はまだ読み込めていないが、さっと目を通しただけで一つ一つの授業において、いかに生徒に身につけさせたい力を意識して作り込んでいたのかが分かるものだった。今回紹介したいのは、資料に添えられてた手紙の内容。読んで、涙があふれてしまった。この手紙は一生、私を支えてくれると思う。

「前略、見つかった資料だけをお送りします。まさに、沙奈さんの印象に残っていた授業の指導案です。力を入れた実践が記憶に残るものであったことに感無量です。発表資料などは残念ながら処分してしまいました。(略) 当時研究していたテーマは「創造力」です。今で言う「思考力・判断力・表現力」にあたると思っています。いつの時代も未来を切り拓く力を育てたいことに変わりはありません。それには受け身の授業ではダメです。まさにアクティブ・ラーニングです。人は能動的にかかわったことしか覚えていません。まして受け身の授業では学んだことを応用する力が身につくはずはありません。社会に出て問題場面に遭遇した時、それをよりよく解決する力を身につけることこそが大切だと思っています。(略)」

この手紙を読んで、この先生が身につけさせたかった力は確実に私の中にある、と思った。私の中にある、やりたいこと、改善したいことに向かってとにかくあれこれ考えて、思考して、ちよとずつ進んでいける力は小学校・中学校の授業によって身についたのではないかと漠然と感じていたけれど、確信が持てずにいた。今回、先生がそれを意図的に身につけさせるよう授業を設計していたことを知って、それはやはり、小学校・中学校の教育によって身についたものであることが分かった。とりあえず、私の中で確実に became ことはたとえ最初はうまくいなくても、他の人から批判されることがあっても、どんなことがあっても、復帰したら生徒がアクティブになれるようなアクティブラーニング型授業の充実に力を注ぎ続けること。復帰する頃にはブームが過ぎ去っていようとも世間がどんな流れになっていようともそれだけは変わらない、と思った。

子供達を見ていても思う。学びの本来の姿は絶対に能動的であって、受動的ではない。受動的になった瞬間にそれは「学び」ではなくて「しつけられている」と言える気がする。だから、生徒のアクティブラーニングを促進する授業はずっと昔から多くの人によってなされているし、これからもずっと、多くの人々が挑戦していくのだと思う。絶対に私もそのうちの1人になるぞ！そして、どうかお願いがあります。「アクティブラーニング型授業なんて、もうずっと昔からやってますよ、何を今更。」みたいな発言はしないでください。それは、これから挑戦し、試行錯誤に挑むつもり意欲ある人たちのやる気をそぐだけです。せっかく、同じような思いを持って、仲間になれるはずの人なのです。そこはそっと、優しく、あたたかく、見守って欲しいのです。自分が昔つまづいた所で、同じようにつまづいているな、と感じたらそっと後押しをして欲しいと思います。そうやって、少しずつ、少しずつ、生徒が能動的に関われる授業が広がって欲しいと心から思った一日でした。指導案を読み込んで、自分自身を振り返ったら、また投稿したいと思っています。

- 彼女のスレッドにあなたはどんなコメントを書きますか。
- 彼女の投稿からアクティブラーニングのエッセンスを見出だしてみよう。